

これまでの審議の経過

これまでの審議会で、諮問の第一の柱である「将来の児童生徒減少に対応した小中学校の編成の方向」については、現在の三つの中学校をその校区の小学校と統合して、三つの小中一貫校（あるいは義務教育学校）を新設するという意見を共通認識することができた。そして、前回の審議会で、諮問の第二の柱である「その編成の方向に照らして誠道小学校をどのようにしていくのか」ということについては、存続、統合あるいは校区の拡大のという視点で審議を行ったが、それぞれに多様な意見が出され、誠道小学校の今後のあり方について意見がまとまらなかった。

答申に向けた論点整理

1. 第二中学校の小中一貫校化のスケジュールについて

第4回の校区審議会では、第二中学校を中心とした小中一貫校化のスケジュールが具体的にないため、誠道小学校が現状のままで存続するのがよいか、または、統合および校区の広域化を行うのがよいかということの判断が難しかった。

小中一貫校開設のスケジュールについて、改めて教育委員会事務局で協議し、次に挙げる事項を確認した。

①「美保飛行場周辺まちづくり基本計画」に基づいた、「市民会館周辺エリア」と「竜ヶ山公園周辺エリア」の整備事業（総事業費試算約54億円、その内起債が約12億円、市一般財源からの支出は約5億円）が、これから計画・実施されていく最も大きな公共事業である。この事業のスケジュールは、「市民会館周辺エリア」事業がまず優先され、この事業の設計が平成29年度・30年度、工事着工が平成31年度である（工期は現在のところ未定）。この事業の終了後に、「竜ヶ山公園周辺エリア」の設計、工事を行う予定なので、この事業全体が終了するのは、平成36年度頃となる可能性が高い。この事業の期間（今後約8年間）は、他に大きな公共施設建設は難しい。

②仮に、「美保飛行場周辺まちづくり事業」が平成36年度頃に完了したとすると、その後小中一貫校建設とすれば、設計・工事終了は平成40年度前後と予想される。つまり、第二中学校を最初に小中一貫校として開設できるのは、今から12年後あたりと推測される。少なくとも、10年以内の開設はかなり難しい。

2. 誠道小学校の今後の在り方について

前回の審議会で、誠道小学校の今後の在り方について、様々な意見が出され、統一された意見にはまとまらなかったが、議論あるいは確認をしておくべき論点がいくつか出されたと考えられる。第5回の審議会では、存続、統合あるいは校区の拡大等について結論を急がず、次の論点について話し合いたい。

①少人数という物理的な問題が、現在の誠道小学校の教育的な課題に関わっていると考えるかどうか。（審議委員会としてそれを共通認識するかどうか。）

②平成32年度より完全移行される新学習指導要領の教育課程の実施において、現在のような少人数で新学習指導要領が目指す教育の効果を担保できるかどうか。（対話的な活動を通して協働的に学ぶ、多様な学習スタイル、外国語活動と外国語の教科化などの視点で考える。このように学び方が変わってくるという中で、少人数をどうとらえるか。それを課題として共通認識するかどうか。）

5回の審議を終えるにあたって協議すること

○誠道小学校の課題について（上記の①、②の視点で）

○これまでの審議において共通認識されたことの公表について

（中間答申とするか、あるいは全体の答申のまとめりまで答申を行わないか）

○今後の審議について

（審議会の任期は2年間 来年度へ継続も可能。また、多年度にまたがる審議継続も可能。その在り方について）

○審議継続になった場合に想定される事項等について

（学校訪問、地域・保護者との懇談等）